

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式 63 記述式 14

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

マーク式は 2 つ減少、記述式は 7 つ増加したが、全体の分量はほぼ同程度である。それぞれの大問は、全体的には基本的内容が中心であり、こうした問い合わせ取りこぼさないようにしたい。例年出題されている細かい知識を問う問題が昨年度よりも減少しており、全体の難易度はやや易化した。

出題の特徴や昨年との変更点

例年の通り、長文の空欄補充を中心としたマーク式に加え、記述式が併用して出題されたが、これまで出題されていた 30~40 字程度の論述問題は出題されなかった。長文の空欄補充問題は数が多いので、語群が 50 音順に並べられていることをふまえ、想定される解答を素早くみつける必要がある。また、求められる解答がわからなくても、語群の中から候補となる用語を絞り、消去法で選べることもあるので、粘り強く対応したい。

その他トピックス

II のセラード、ファベーラ、西部大開発は 2025 年度「早慶レベル模試」で出題されている。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式	工業	工業に関する基本的内容の問い合わせが中心であるが、問 1 の (35)(36) - 35 (RCEP), (39)(40) - 24 (AIIB) はやや難しい。 (15)(16) - 13 (3/4), (23)(24) - 15 (2~3) は判定に迷う。	標準
II	マーク式 記述式	大阪の姉妹都市	大阪の姉妹都市を素材とした、主要都市に関する出題で、昨年度の F 1 開催国・開催都市からの出題と似ていて、どちらも基本的な地誌の知識があれば解答できる問題が多い。問 5 のリチウムを生産量上位国から判断する問題はやや難しい。 (73) (74) - 17 (経済技術開発区) は 1984 年に指定されており、1970 年代末に指定された 18 - 経済特区と紛らわしい。	やや易
III	マーク式 記述式	都市と観光	基本的な知識を問うものが多いが、(97)(98) - 46 (都市のスポーツ化), (99)(100) - 35 (ストロー効果), (109)(110) - 41 (ダマスカス) はやや難しい。 (117)(118) - 21 (エコツーリズム) は昨年度も選択肢にあった用語で、過去問を丁寧に学習したい。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 資源や産業、企業活動の国際化や先端産業の動向、そして、生活文化、国家・民族、紛争は頻出の分野である。
- 地誌は、自然、産業、生活文化、都市、近現代史まで幅広く問われる。地図を用いた出題は近年みられないが、地図をもとに述べられた長文や、地理的位置から判断させる出題もみられるので、常に地図帳を用いた学習が必要である。
- 論述は、教科書の内容を短い字数で述べる標準的なものが多いことから、教科書の太字の語句やテーマを 30 ~40 字程度で説明できるようにしよう。
- 教科書の内容に沿った基本的内容の出題が多く、脚注にある図や各種統計の説明も含めて、教科書を徹底して読み込み、用語の定義や事項の説明などを整理しておこう。
- 過去問を通して、本学独自の長文の空欄補充形式に慣れよう。なお、空欄に適当な語句を入れて完成させたこの長文は、学習のまとめとして利用することができる。